

# ミッション

## 地域から託された使命

「救命救急センター」は、横浜市東部地域の病院と連携し、あらゆる疾病・外傷の重篤な救急患者を24時間体制で受け入れています。現在、横浜市内では9病院が指定され、鶴見区では東部病院が唯一の救命救急センターです。「横浜市重症外傷センター」は、大量出血によるショック症状を伴う重症外傷など、他の救命救急センターで対応困難な患者を受け入れます。救急医療体制の整備を進める横浜市の要請を受けて開設され、全国初の公的な基準に基づいた外傷センターです。外傷診療や手術に対応可能な外科医が24時間待機するなど厳しい要件を満たす必要があり、現在、当院を含めて2施設のみが指定されています。



○は重症外傷センターと救命救急センター。●は救命救急センター。

# 災害医療

## 現場へ走る

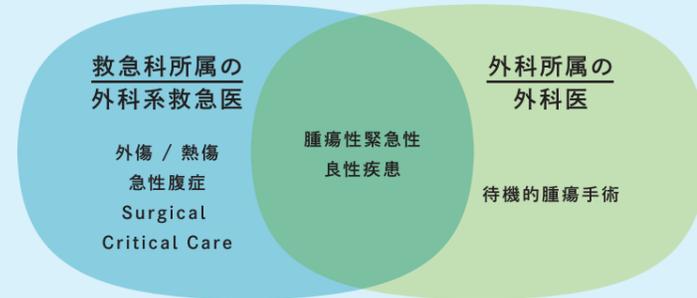
東部病院は、大規模な災害発生時に地域の医療機関を支え、重症患者の受け入れや搬送を行う「災害医療拠点病院」であり、「神奈川県 DMAT (= 災害派遣医療チーム)」にも指定されています。平成23年の東日本大震災では宮城県南三陸町に医師、看護師、薬剤師たちで編成した医療救護班を派遣し、仮設診療所で被災者の診療にあたり、平成27年の関東・東北豪雨、続く平成28年の熊本地震の際にもDMATを派遣しました。また、「横浜救急医療チーム (YMAT)」(平成20年発足)を構成する病院として、横浜市内で発生した局地災害や高速道路交通事故などの現場への派遣要請に応じ、救命活動をしています。



# トップランナー

## 命をつなぐ、救急医

東部病院の救急科には、全国から集まった外傷外科、IVR、集中治療のスペシャリストが多数在籍しています。神奈川県病院から伝統を引き継ぎ、外科と救急科が1つのユニットとして診療にあたるのも当院の特徴です。また、平成29年よりCT、IVR、手術など重症外傷患者の緊急処置が同時に1カ所のできる初療室「ハイブリッドER (= Hybrid Emergency Room)」を導入し、救命率のさらなる向上が図られています。現在、この設備を持つのは国内で10施設、神奈川県下では当院のみです。



平成29年済生会横浜市東部病院 ハイブリッドER開設

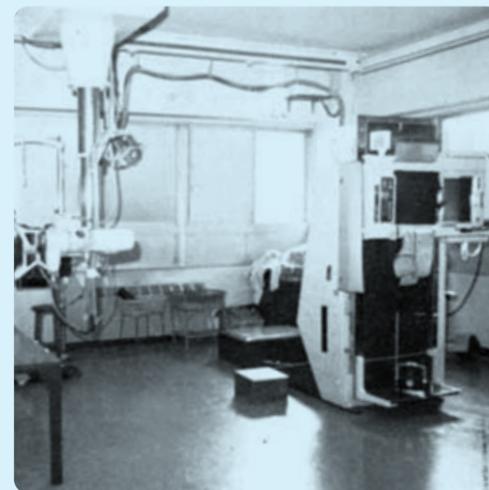
# TOBU HOSPITAL

横浜市東部病院救命救急センター

横浜市重症外傷センター



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL  
 恩賜 財団 済生会横浜市東部病院



昭和40年神奈川県交通救急センター 救急用X線撮影室

東部病院の救命救急  
 原点が  
 ここにある。  
 Since 1965

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉三丁目6番1号 / 許可病床数 562床 / 院長 三角 隆彦

TEL.045-576-3000 FAX.045-576-3525

発行

平成31年3月初版

平成31年9月第2版



# HISTORY

日本の外傷救急の歴史が生まれた場所。

日本では戦後、自動車の普及により交通事故が激増し、交通戦争とまで呼ばれるようになった昭和40年に済生会神奈川県病院に開設されたのが「神奈川県交通救急センター」です。今日大きな進展を遂げた日本の救急医療は、この地でスタートしました。



開設時すでに救急車専用入口が併設



当センター考案の多機能ストレッチャー

# 東部病院の救命救急



済生会神奈川県病院に併設された交通救急センター

東部病院は、最重症の救急患者を受け入れる三次救急医療を担う病院として、地域の最後の砦となる気概を持ち、病院を挙げて救命救急に取り組んでいます。当院の救急医療には、済生会神奈川県病院の「神奈川県交通救急センター」をルーツとする長い歴史と伝統があります。そこに見出すのは、最善の道を追求め、新しい医療を切り拓いていこうとするチャレンジ精神、パイオニア精神です。私たちは50年来、連綿と受け継がれてきたこの精神を誇りとし、救急医療のさらなる発展に向けて進み続けます。

# SPIRITS

受け継がれるもの、それは、済生会の魂。

平成19年の東部病院の開院を機に救急機能は神奈川県病院から東部病院へと移され、同年に「救命救急センター」が、平成27年に「横浜市重症外傷センター」が開設。済生会神奈川県病院で培われた外傷診療の伝統と実績を受け継ぎながら、常に新しい治療法やシステムの開発に取り組み、救急医療の発展に貢献し続けています。

開発に関わった医療機器と設備



RESCUE BALLOON ER®



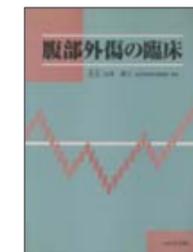
pelvicky®



2room type ハイブリッドER

## 沿革

- 明治44年5月 恩賜財団済生会創立
- 大正2年9月 恩賜財団済生会の第一号病院として済生会神奈川県病院開設
- 昭和40年8月 神奈川県交通救急センターが済生会神奈川県病院に併設される
- 昭和58年 日本救急医学会・専門医制度発足（発起人メンバー：須藤政彦）
- 昭和61年10月 日本外傷研究会発足（世話人：茂木正寿）
- 昭和61年11月 第14回日本救急医学会総会・学術集会主催（会長：須藤政彦）
- 平成3年3月 第30回日本救急医学会関東地方学術集会主催（会長：山本修三）
- 平成9年4月 FAST(focused assessment with sonography for trauma)の国際カンファレンスに参加（吉井 宏）
- 平成9年11月 腹部外傷の臨床発刊（へるす出版）
- 平成17年5月 第19回日本外傷学会総会・学術集会主催（会長：吉井 宏）
- 平成19年3月 済生会横浜市東部病院開院
- 平成19年9月 救命救急センター指定
- 平成22年11月 第2回日本Acute Care Surgery研究会学術集会主催（会長：北野光秀）
- 平成23年3月 神奈川県DMAT指定病院
- 平成23年11月 DIRECT (Diagnostic and Interventional Radiology in Emergency, Critical Care and Trauma) 研究会発足
- 平成27年4月 横浜市重症外傷センター指定
- 平成29年6月 第31回日本外傷学会総会・学術集会主催（会長：北野光秀）
- 平成29年10月 ハイブリッドER開設
- 平成30年4月 平成30年救命救急センター充実度段階評価 全国第12位(大学病院以外では全国3位)評価を獲得
- 平成30年6月 HERS (Hybrid ER System) 研究会発足
- 平成30年12月 ハイレベル外傷診療研究会参画



腹部外傷の臨床  
へるす出版  
編集 山本修三



第19回日本外傷  
学会・学術集会  
会長 吉井 宏



第2回  
Acute Care Surgery  
研究会学術集会  
会長 北野光秀



第31回日本外傷  
学会総会・学術集会  
会長 北野光秀